

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 入選

税金に誇りを

行田市立見沼中学校

三年 大沢 美結

私達が買い物をする時、もとの値段に加えて「消費税」という「税金」を払っています。しかし、私には、税金を払っているという感覚はこれくらいしかありませんでした。

そこで、税金について浮かんた三つの疑問について、インターネットや資料を使って調べました。

一つ目は、税金にはどのくらいの種類があるのかということです。

国に納める「国税」が二十五種類、都道府県や市町村の地方自治体に納める「地方税」が二十六種類あるということが分かりました。私は、税金にはいくつもの種類があるということは認識していましたが、ここまで多くの種類があるということは予想外だったので驚きました。

二つ目は、納められた税金は何に役立っているのかということです。

その多くは、「社会保障」です。社会保障とは、私達が安心して生活していくために必要な公的サービスのことで、医療、年金、介護、福祉などのしくみのことです。社会保障は、私達の生活には欠かせない、とても大切なものです。もし、税金が無かつ

たら、このような公的サービスを受けることに全て自分の費用で負担することになります。そうになると、便利で使いやすいはずの公的サービスが、気軽には使いにくくなってしまわないでしょうか。

三つ目は、税金を払わなかったらどうなるのかということです。

「申告」とは、国民が法律上の義務として、官公庁などに一定の事実を申し出ることを意味し、「納付」とは、官公庁などの公的機関に金品を納めることを意味します。

「申告納税制度」という制度では、申告をしなければならぬ人が申告をしなかったり、申告期限を過ぎてから申告すると、「加算税」や「延滞税」が課せられる場合があるそうです。

インターネットや資料を使って調べたことにより、税金を払うことがどれだけ大切なことを学ぶことができました。私達が健康で安定した生活を当たり前のよう送れていることは、税金が大きく関わっているからこそなのだと感じました。

私は、普段何気なく払っていた税金が、自分を含め、多くの人の役に立っていることを知り、嬉しい気持ちになりました。また、「負担」というイメージのあった税金ですが、このように多くの人の役に立っていることを知ること、払うことに誇りを持つてるような気がしました。

大人になると、払う税金の量が増えると思います。しかし、「税金は多くの人の役に立っている」ということを忘れず、「負担を持っている」ではなく、「誇りを持っている」という気持ちで、申告、納税をしっかりと行いたいと思います。